

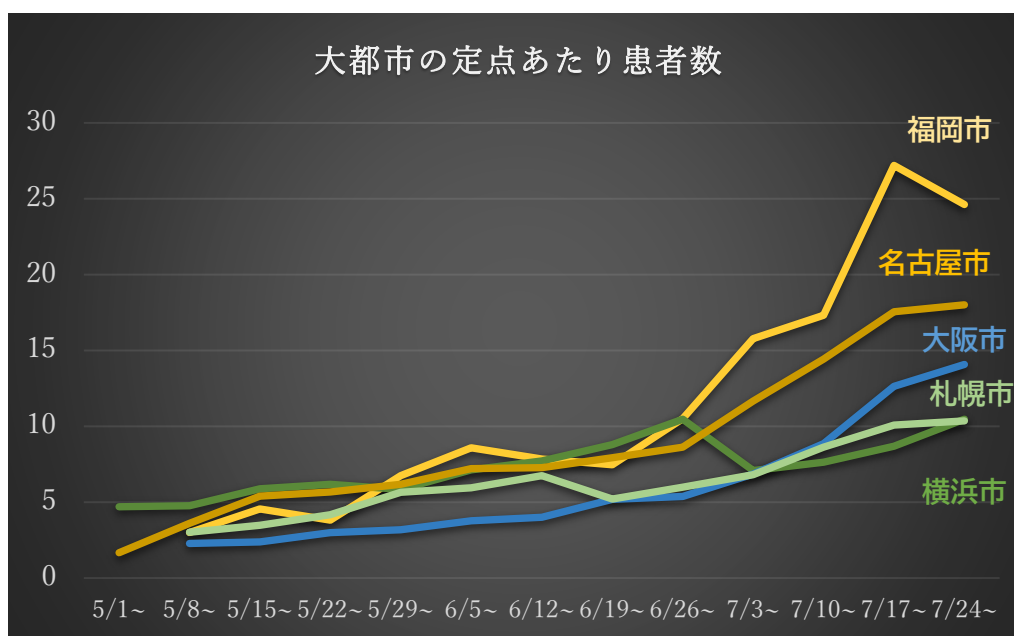
## 新型コロナウイルス感染症の再流行と5類移行後の院内における対策状況について

感染対策情報発信センター（感染症内科）

原田 由紀子

福岡市で7月23日までの1週間に定点把握された新型コロナの感染者数は1387人で、1か月前の同じ期間と比べておよそ3.6倍に増えたことが報道されました。

その後8月6日までの1週間の定点あたり患者数は21.64人と、前週24.63人から若干減少したものの、依然として他都市よりも高い水準で推移しています。



(各都市のホームページより引用)

新型コロナウイルス感染症の5類移行後最初の流行期を迎えたといえますが、ここであらためて厚生労働省が示した『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る新型インフルエンザ等感染症から5類感染症への移行について』を振り返るとともに、当院の運用をご紹介します。

### （変更ポイント1）新型コロナウイルス感染症の患者等への対応

感染症法に基づく入院措置・勧告、外出自粛要請といった私権制限がなくなりました。参考として発症後5日間という期間が示されたものの、外出を控えるかどうかは原則個人

判断となりました。この変更によって、患者への療養指導内容や入院加療期間、職員が陽性となった場合の就業停止期間などを変更しました。

関連する当院の運用

	5月7日まで	現在
陽性患者の入院期間	発症から10日間+α	発症から5日経過しており、かつ解熱、痰・咽頭痛などの諸症状の軽快後24時間程度経過していれば隔離解除可。自宅療養可能な状態に軽快すれば発症から5日以内でも退院可。
陽性となった職員の就業停止期間	7日間就業停止。	発症日を0日とし、発症後5日経過し、かつ解熱、痰、咽頭痛などの諸症状の軽快後24時間程度経過するまで就業停止。
職員が濃厚接触者（観察対象者）になった場合	就業前検査を実施し陰性なら勤務可。初日はLAMP、以降は抗原定性検査で、5日目まで実施。	就業前検査を実施し陰性なら勤務可。抗原定性検査を5日目まで実施。
入院患者の外出・外泊	不可。	(継続中)

## (変更ポイント2) 基本的な感染対策

マスク着用をはじめとする基本的な感染対策については、個人や事業者の判断に委ねられました。来院者への案内やPPE着用等について運用を再考しました。

関連する当院の運用

	5月7日まで	現在
来院者に対する検温と手指消毒案内	Pepperまたは職員が実施。	(継続中)
各案内窓口の亚克力パーテーション類	患者と直接対面する窓口に設置。	順次撤去。
一般患者対応時のPPE	リスク回避PPE（食事介助などマスク無しの患者の対応時は、N95とゴーグル着用）。	標準予防策+飛沫予防策。流行状況によりリスク回避PPEを再開する。
患者のマスク着用	外来は入館時、入院は職員と接するときおよびベッドから離れるとき、にサージカルマスクを着用してもら	(継続中)

	う。	
館内放送	定時にマスク着用と換気を促す放送を実施。	(継続中)

### (変更ポイント3) その他

その他、変更箇所の一部をご紹介します。

関連する当院の運用

	5月7日まで	現在
入院時検査	全例にNEAR・LAMP・PCRのいずれかを実施。	有症状者・全麻実施予定者・透析患者のみに実施。
転院前検査	施設、病院等全転院症例に対し、転院前日にLAMPまたはPCRを実施。	転院先から希望があった場合のみ実施。
一般入院患者の面会	①入退院日の付き添い、②手術前後、③ターミナルほか主治医が認めたとき、に限定。	左記①②③に加え希望時。
一般入院患者への荷物受け渡し	1階警備室で受付後、職員が受け取り。	病棟（多床室内は不可）で患者または職員が受け取り。
コロナ病床の清掃（床・風呂・トイレ）	専従委託職員1名が実施。	PPE着用（サージカルマスク・手袋）で一般委託職員が実施。
陽性入院患者の廃棄物処理方法	全て白ベールに入れて蓋と本体をガムテープで巻き、容器の外装を拭き上げ。	一般患者と同じ（PPE類は段ボール、鋭利物が白ベール）。
陽性入院患者のリネン	透明二重ビニールに入れ地下で2日以上保管、その後リネン業者へ。	一般患者と同じ。
陽性入院患者の食器	Disposable食器を使用し廃棄。	一般患者と同じ。
陽性患者の検体取扱	容器表面を拭き上げてビニール袋に入れて提出。	一般患者と同じ。（容器表面に目に見える体液汚染のあるものは拭き上げる。）
職員の検温記録	出勤時に体温を記載し、月ごとに総務課へ提出。	廃止。
職員の食事休憩	黙食、時間および場所の分散。	(継続中)